

すべての子どもを幸福に

清 御治代

＜倉橋賞を受賞して＞

にぎやかにきこえていた園児たちの明るい声もいつしか静まり、庭の池の水が真夏の太陽にキラキラとかがやいています。見上げる青空には雲の峰が白く浮かび、おひるねの子どものたちの幸福な夢を追っているようです。

いそがしく過す間の一時を、窓辺の机にむかうと、いろいろな子どもたちの姿が私の脳裡に浮かんでまいります。涼を求めて両親や兄弟といっしょに山へ海へと元気一杯の子ども、お庭の水あそびや蟬取りに余念のない子ども、また風鈴も涼しい縁先ぎで母のひざをまくらにおひるねの子ども、みんな幸福な子どもたちの姿です。

しかし一方、この暑さの中でおとなの忙しさの中に忘れのれ、むさくるしい小路や

危険な場所に放置されている恵まれない子どもたちのことを思うと、私の胸は痛みを覚えます。

民主的な社会の建設を目ざし、子どもたちの人格を尊重した児童憲章や児童福祉法が制定されてから十年、私もはずべての子どもの福祉をねがい、その教育の正しいあり方について学んでまいりました。その間の保育園、幼稚園の急速な増加は、幼児教育に対する社会一般の理解が如何にたかまったかを物語っております。

しかし、まだすべての子どもが平等な立場で保育されているとは言えないようです。むしろ見方によっては、不平等な幾多の矛盾をもった現状であるとも言えます。

私はこの問題を何とか少しでも解決した

と思います、その一端として家庭保育児の実態を明らかにする必要があるのです。

そして未熟なものではありませんが、諸先生がたの御批判をいただくため、その研究成果を保育学会に発表いたしましたところ、思いがけずも倉橋賞をいただきまして、本当に恐縮いたしております。

「保育真諦」「子供讃歌」「幼稚園雑草」などの著書をとおり、常々倉橋先生の子どもへの深い御真情にふれ、その御人格をおしたいしておりましただけに、受賞に際しての感激はひとしおでございました。

保育の道は、深い人間関係の上に立つ幅広い総合的な学問で、その困難な壁に直面しては自信を失うこともしばしばありますが、先生のお声に励まされ、子どもたちの幸福を祈りつつ、一步一步の前進に今後とも努力してまいりたいと思っております。

最後に諸先生をはじめ、この研究に協力してくださいました多くのかたがたに感謝の意を表し筆をとどめたいと思います。

（八月盛夏記 名古屋市立保育短期大学）